

ドットスタイル Style



社会の中で孤立するひとり親とその家族が、孤立でなく自立できる社会を目指すことを目的として活動されている「.Style(ドットスタイル)」。

代表の小西凡子さんにお話を伺いました。

設立の経緯について

離婚した元夫は、優しく仕事もでき、頭もいい人なのに、自分で自分の人生を壊すようなところがある人でした。それはどうしてなのか、ずっと考えていました。幼稚園の頃から自分でレトルト晩ごはんを作り、ひとりで寝ていたこと。父子家庭で誰にも頼れなかったこと。父が再婚して兄弟ができて、両親が離婚すると母親は兄弟だけを連れて家を出てしまい、またひとりになったこと。そんな彼の幼少期にヒントがあると思いました。

そして、私が彼と家族であったこととしりとして、そんな子どもたちから信頼される大人になりたいと思い、特定非営利活動法人山口せわやきネットワークの「こども明日花プロジェクト」の勉強会に参加したのをきっかけとして、子どもを取り巻く環境に対して私の立場でアプローチできることを考え、「ひとり親家庭への支援」へと繋がり、団体を立ち上げました。

これまでの活動について

はじめは「こども明日花プロジェクト」の「シングルカフェ」(シングルマザー、シングルファーザー対象のフリーカフェ)の運営からスタートしました。参加人数は多くはありませんでしたが、そこから口コミで個別相談が増え、行政への同行支援や食品の

支援をしました。

印象に残っているのは2020年、コロナ禍の大晦日に、ひとり親に限らず困窮した方におせち料理弁当とお蕎麦を配ったこと。

ドットスタイルに寄せられた「困っているのはひとり親だけじゃない」というメールがきっかけでした。「そんなこと言われても、うちはひとり親支援団体だし」と知らん顔するつもりでしたが、ドットスタイルに声が届いたのも何かの縁と思い、寄付が集まらなかったら自腹を切る覚悟で、山口市で100名分のお弁当を配ることを決めました。

それからSNSで寄付の呼びかけをしたら、1日で100名分の寄付が集まり、知らない方からも寄付や応援メッセージをたくさんいただきました。「周南ちるちあネット」さんが協力の手を挙げてくださって、周南市でも大晦日の食品配布が実現、ほかにも萩市、防府市でも配布することができました。

社会の多くの方が、支援の狭間で見逃されてしまう方たちを心配し、自分になにができるか、なにか力になれることはないかと考えていたところに私たちの思いが重なった、まさにそんな瞬間でした。人ってすごいなって思いました。

生理用品配布会について



コロナ禍で食品配布の支援に明け暮れていた時、ふと「いつまでこれを続けるのか」と思いました。そして、ひとり親の困窮のもっと根本的な問題に目を向けなければいけないんじゃないかと考えました。ひとり親の悩みの1位がお金の問題 → ひとり親の大半がシングルマザーで、フルタイムで働いているにも関わらず収入が低い → 性別役割分業による賃金の低さと職業選択の難しさ。ひとり親の困窮の根っこにはこうした「女性の生きづらさ」が関係しているのではないかと考えました。

調べるうちに、コロナ禍で生活が困窮し、子どもが着なくなった服を生理用品がわりに使うシングルマザーや、生理用品を必要なだけ買えないために外出を控え、授業を休む学生などに会いました。ちょうどその頃、「女性が生き生きと暮らすことに役立ててください」と託された寄付をいただき、それを原資に「生理用品の配布会と女性相談会」を県下4か所で開催しました。活動の途中からは株式会社丸久様が生理用品を提供してくださいました。これをきっかけに、山口県内ではいくつかの小学校・中学校でトイレの個室にナプキンを設置してくれるようになりました。また、令和3年度～4年度は県の事業として生理用品の配布会を行いました。すると、生理を軸に様々な女性としての生きづらさが寄せられました。生理そのものも大変ですが、なぜこんなに生理に苦しまなければならないのか、生理に象徴される女性の置かれている現状や立場に目を向けるきっかけになりました。

現在の主な活動について

1. ひとり親支援については、看板事業となった「田舎からのおくりもの」(県内のひとり親家庭に山口市阿東の特産品を届ける事業)のように、物を手渡すだけの支援ではなく、「田舎からものが届く温もり」や「季節を感じる」と、生活や成長の中で経験となる支援を引き続き心掛けていきたいと思っています。



2. 「kit_olga(きつとおるが)」という、若者の居場所事業をパイロット的に始めます。「kit=箱」「olga=全体の、傷のない、良い兆し」という意味から、ジェンダーレスで包摂的な全体の箱、傷を受けることの無い安心な場所、困った

ときにあそこに行けば誰かが「きつとおるが」と思ってくれる場所を作りたいと思っています。

3. 生理について、これまで注目されていた経済的な「生理の貧困」だけでなく、特性による感覚過敏で生理用品が使えない人や、難病で体の成長が遅く、自分の体形に合った生理用品が無い人など、見えてきたさまざまな課題をひとつひとつ解決していく活動を進めます。
4. ひとり親をはじめ、多くの人々が性別や立場によって職業選択の幅が狭められ生活が困窮することの無いよう、豊かで自由な職業選択を提案するイベントや、職業体験、スキルアップ講座といったキャリア支援にも力を入れます。

今後の活動について

ひとり親がフルタイムで働いても収入が少ない、家庭との両立を考えると職業を選べない、子育てのためハラスメントにも耐えながら頑張りすぎて働けなくなる、そんな現状を変えたいと思っています。職業選択からスキルの習得、定着支援まで、働くこと・暮らすこと・自分を生きることを支援したいと思っています。できれば、シングルマザーたちの働く場所も作れたらと考えています。それと同時に、若い世代が性別や立場によって不当に搾取されないように、居場所や、わかりやすく啓発していく仕組みを作りたいと思っています。

みなさまへメッセージ

ドットスタイルはひとり親当事者が運営する団体です。自分たちのことでいっぱい、手を差し伸べてくださる団体さんのお手を取ることができなかつたり、お世話になりっぱなしで何もできないことも多いのですが、それでもいつも笑顔で接していただき、必要な時に力を貸してくださる他の支援団体の皆さま、私たちを知ってくださることはないとアクセスしてくださる市民の皆さまに、この場を借りてお礼が言いたいです。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

.Style ウェブサイト
<https://dot-style.org/>

